

実践『ペルソナ』通信 Side-Be (No. B-15) 「実践女子大生における将来設計の実態」に関する調査結果

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会では、「将来設計の実態」についてのアンケート調査（実践『ペルソナ』通信（No. 15））の結果をもとに、実践女子大生の将来設計について、さらに深く調査しました。

※実践『ペルソナ』通信 Side-Be とは、実践『ペルソナ』通信として公表された調査結果をもとに、写真観察を行い、さらに深く実態を考察した調査レポートです。

調査結果

「結婚・出産後も仕事を続けたい」と回答した人7名に、理想的な年齢や雇用形態についてさらに詳しく調査した。すると、「①仕事中心のキャリアウーマン型」「②仕事・家庭の両立志向型」「③家庭中心型」の3タイプに分類された。3つの中では「②仕事・家庭の両立志向型」が最も多かった。

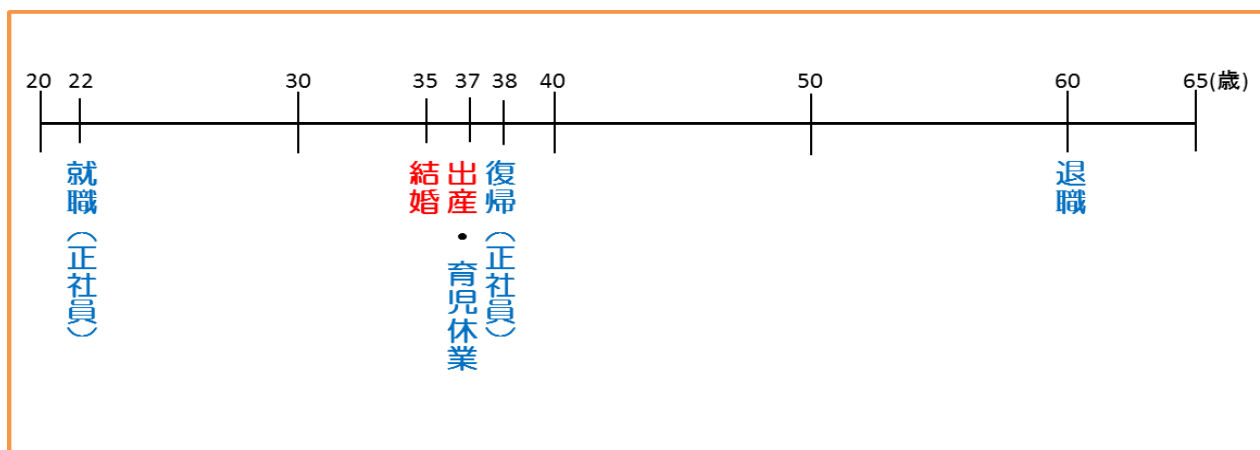
また、結婚においては、「①仕事中心のキャリアウーマン型」では30代で望む傾向がみられた。一方「②仕事・家庭の両立志向型」と「③家庭中心型」では20代後半に結婚を望んでいた。

出産においては、どのタイプでも育児休業後は復帰したいことがわかった。復帰後の雇用形態はさまざまであるが、パート勤務が最も多く、50～60歳まで続けたい傾向がみられた。

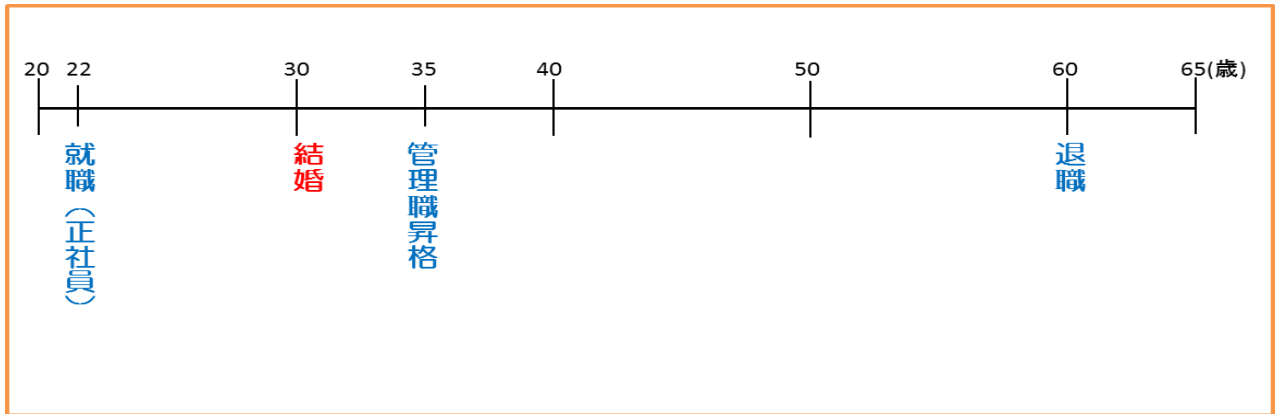
以下の図が、タイプ別に分類された理想的な将来設計図である。

①仕事中心のキャリアウーマン型

◆Yさん(21歳)

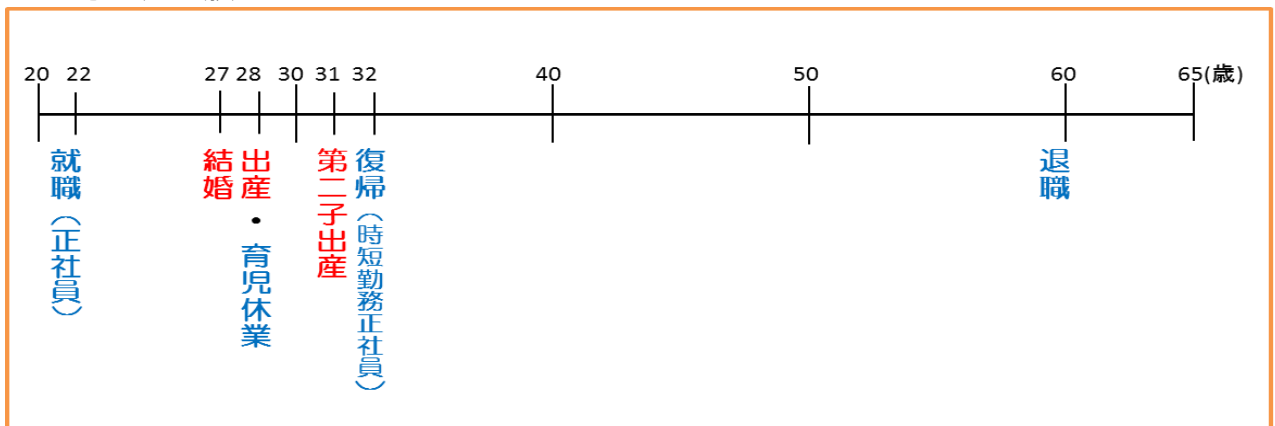


◆Cさん(21歳)

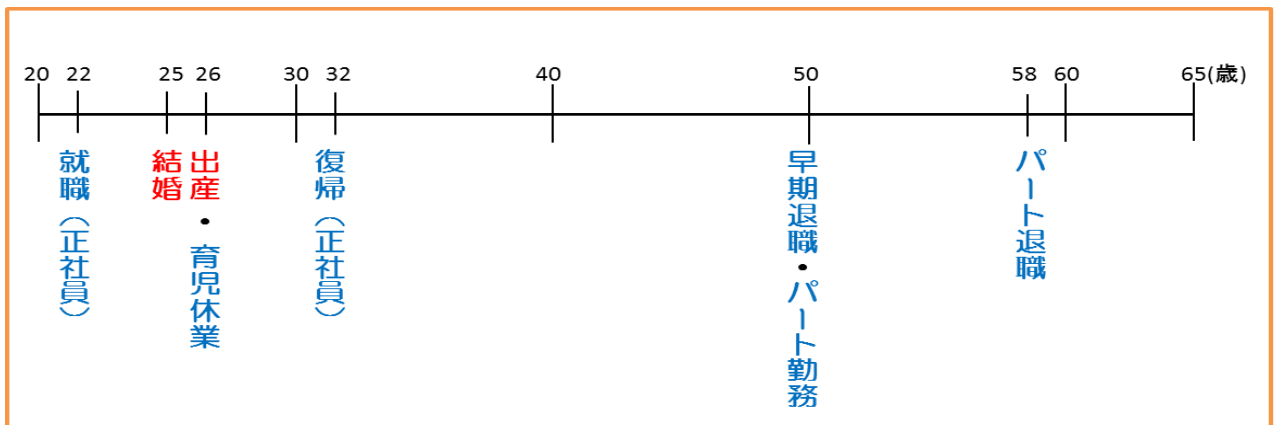


②仕事・家庭の両立志向型

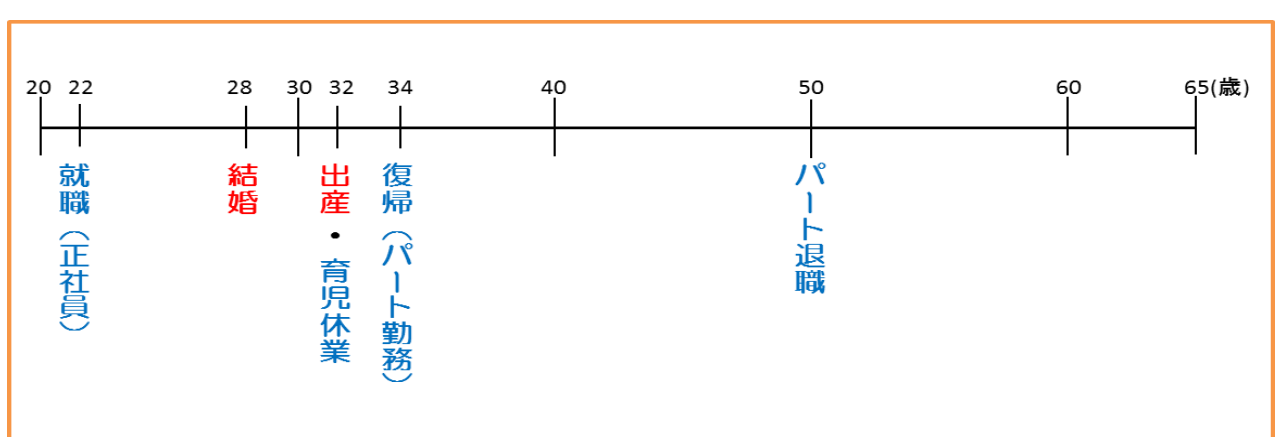
◆Aさん(21歳)



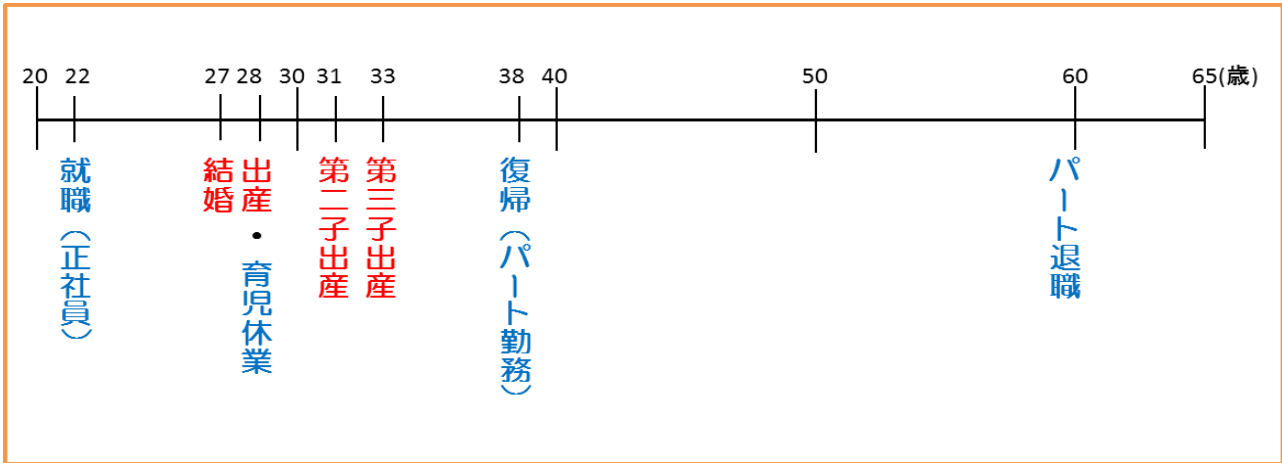
◆Mさん(20歳)



◆Sさん(21歳)

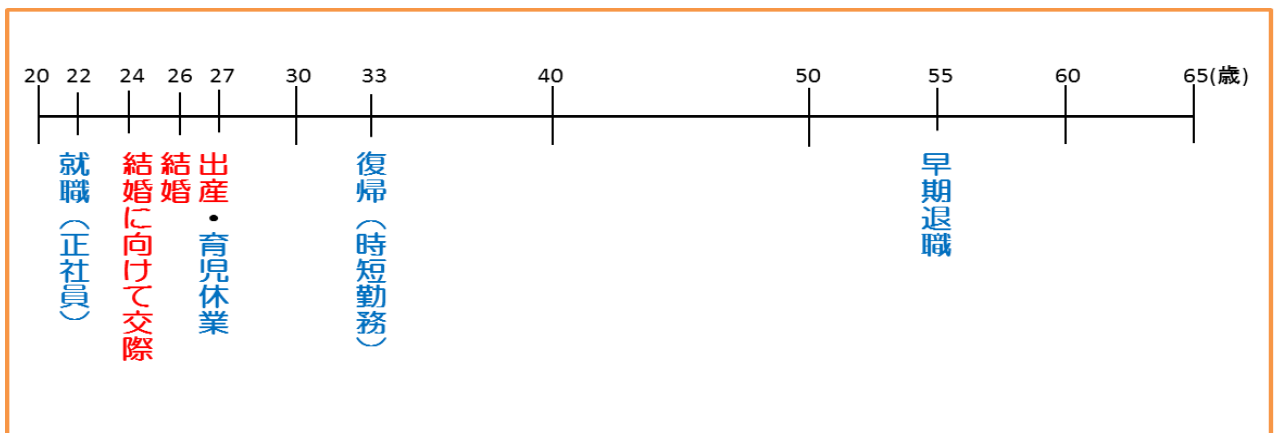


◆Mさん(21歳)



③家庭中心型

◆Aさん(21歳)



調査担当

実践「ペルソナ」研究会

実践女子大学 人間社会学部

3年 新井美怜

3年 大崎綾乃

3年 岸本萌美

3年 鳥居由佳子

3年 松川早希

3年 鈴木千晶